



TechnoArena

テクノアリーナ

2023年度



大阪大学大学院工学研究科

ごあいさつ



大阪大学大学院工学研究科長
桑畑 進

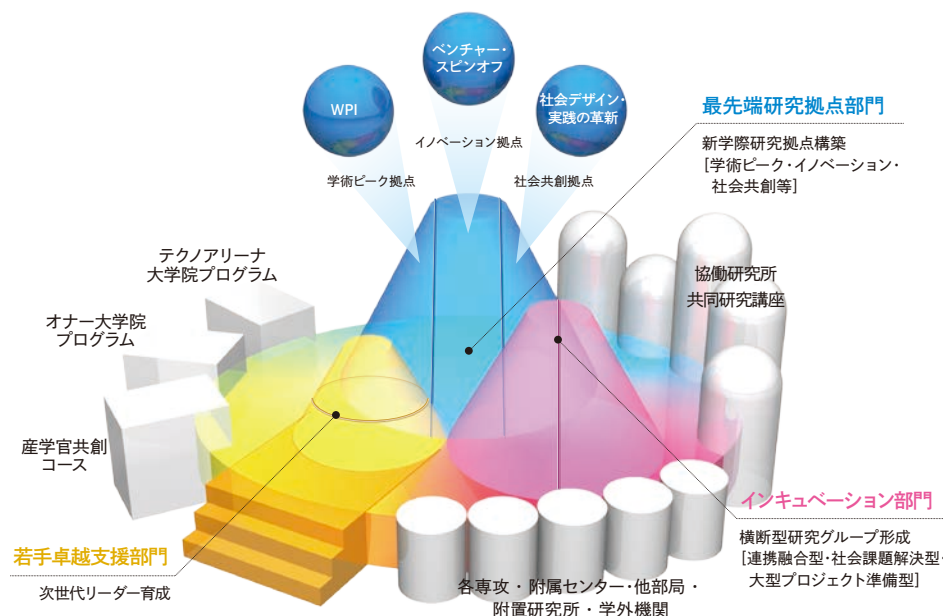
自然の摂理を参照しながら、人間社会で役立つモノ、コト、場を作り出す「工学」という学問は、多様化する現代社会において2つの側面を持たなければなりません。1つ目は各専門分野における学問体系を、ぶれずに教育および研究を行う姿勢。多様性を本来の学問体系から見つめなおし、発展性を正しく見極めて利用価値を高めてゆきます。2つ目は専門領域を超えた境界領域の教育および研究を創成する姿勢。これが柔軟に行えるか否かが、世界的競争力に直結すると考えております。前者は大学の本来の姿であり、工学教育の根源をなすものでありますが、それを維持しながら後者の展開を自由に行い、Creative Destruction（創造的破壊）をフットワーク良く行えるプラットフォームとして、「テクノアリーナ」を2020年4月に発足させました。

テクノアリーナは3つの部門で構成されています。本学工学研究科の顔と言える、国内外から注目されている最先端の研究を行っている「最先端研究拠点部門」、社会のニーズや課題に対し、分野を横断した研究グループを形成している「インキュベーション部門」、そして工学研究科の次世代を担う研究リーダーを育成する「若手卓越支援部門」であります。各部門において、様々な専攻・附属センターからの選抜を経て結集した研究者が、他部局・センターや国内外の研究機関、産業界などと緊密に連携し、研究活動を行っています。当然のことながら、SDGs につながり得る研究開発も進めております。大阪大学では、基礎研究から社会実装、さらには知見や新規課題の研究現場へのフィードバックを包含した「OU エコシステム」を提唱しており、テクノアリーナはそれを実践するプラットフォームでもあります。

今後も、学術の発展と産学連携に資する先導的な取り組みを進めてまいりますので、テクノアリーナの活動に幅広くご参加を賜りたく、皆様の今後のご協力とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

テクノアリーナの仕組み

テクノアリーナでは、研究開発タイプに応じて「最先端研究拠点部門」「インキュベーション部門」「若手卓越支援部門」の3部門を設定しています。社会的課題やニーズに即応し、新たな学術領域を開拓していくため、所属部局や専攻に関わらず、分野横断による柔軟な研究教育体制を採用しています。



OU エコシステムの実践

以下の図に示すとおり、基礎研究の成果を社会実装し、そこから研究課題を見つけてまた新たな基礎研究につなげるという OU エコシステムを実践する場が「テクノアリーナ」です。



研究シーズ集&シーズ検索

研究シーズ集は工学研究科の研究者が取り組んでいる研究内容をまとめたものです。

教授版、准教授・講師版、助教版の3種類を用意しており、冊子版と電子版があります。

冊子版の記載内容は発行当時のままですが、電子版は随時記載内容を更新しており、キーワード等による検索機能が付いているので簡単にシーズ検索ができます。

冊子版



【教授版】



【准教授・講師版】



【助教版】

電子版

<http://www.cfi.eng.osaka-u.ac.jp/seeds/>



最先端研究拠点部門

本部門では「学術ピーク」「イノベーション」「社会共創」の3分野において拠点を設置し、国際的あるいは社会的な工学拠点形成と最先端の新学際研究分野の開拓を進めます。

学術ピーク拠点

日本及び世界をリードする最先端の新学術領域を開拓し、世界トップレベルの学術拠点の形成を進めます。

イノベーション拠点

最先端の技術シーズの開拓と、ベンチャースピンオフ等を通じたイノベーション創出を進め、産学連携による新たな研究開発モデルを先導しう学術拠点の形成を進めます。

社会共創拠点

新たな学術領域の開拓につながる研究を基盤とし、産学官の共創や連携を通じて持続可能な未来社会の構築や、社会システム・実践の変革に資する学術拠点の形成を進めます。

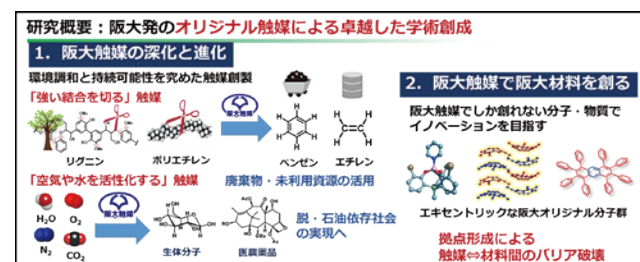
学術ピーク拠点

鳶巣触媒科学パイオニア拠点（連携）

2021年度採択

この触媒科学パイオニア連携拠点は、文字通り触媒科学分野において「開拓的」研究を推進するための拠点です。もとより、大阪大学ではC-H活性化や分子性光レドックス触媒など触媒科学分野を革新する発見がなされてきました。大阪大学の強みである触媒科学研究をさらに飛躍させるには、既存の学問分野の枠組みを超えた連携が欠かせません。本拠点には、有機化学、錯体化学、分光学、あるいは理論化学などの多様な分野のエキスパートが参画しています。また、最先端の触媒科学を駆使した応用研究も可能にするために、材料科学分野のトップランナーたちも加わっています。これらの研究者の有機的な連携を通じて、触媒科学におけるブレイクスルーを実現し、発展的進化が可能な未来社会の構築に貢献します。触媒開発という点では、強い化学結合を切断する触媒の開発による、未利用バイオマスや廃プラスチックからの基幹化成品合成プロセスの開発や、窒素や二酸化炭素のような不活性小分子を活性化し高付加価値化合物へと変換する触媒の開発など、多くの研究が進行中です。

さらに、大阪大学の触媒技術を駆使することにより、独創性の高い分子群が続々と創出されており、太陽電池や蛍光プローブなどへの材料応用も視野に入れた研究が進められています。



応用化学専攻
教授 鳶巣 守

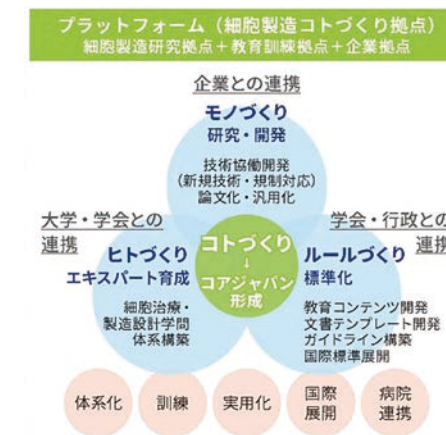
イノベーション拠点

紀ノ岡細胞製造コトづくり拠点

2021年度採択

細胞製造コトづくり拠点では、幹細胞を用いた再生医療のための移植細胞や培養食肉、創薬用オルガノイドを対象とした、新展開産業に資する細胞製造技術の構築を、生物化学工学の観点から、開発の方向性を明確にし、細胞製造に関する共通および固有の概念・技術を構築する「コトづくり」の実践を目的としております。特に、「細胞を育む」ことを技術の幹とする細胞製造においては、学問進捗が未熟で、学問構築と社会実装が同時進行する必要があり、人、情報、技術、分野をつなぐ仕組みによる、センス良い拠点形成が不可欠であると思います。

本拠点では、工学研究科の強みである多彩な産業分野からの協働研究所と



共同研究講座を含む研究室群をコアとし、前例のない産学官連携の頭脳集団（コアジャパン）を形成し、「細胞製造性」という新たな学問を基軸として、気まぐれな細胞をいかに安心・安定・安価に製造するかを導く細胞製造の技術開発（モノづくり）や、国内規制や国際標準化などのガイドラインや指南書の作成（ルールづくり）、社会人リカレント教育を含むセンス良い人材の育成（ヒトづくり）を同時に行うことで、教育・研究・産業化・生活に対する活動を可能とするエコシステムを形成し、細胞製造に関する技術の社会実装（コトづくり）を目指しております。

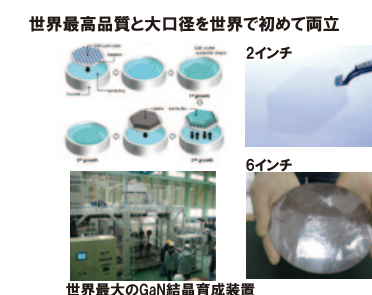


生物工学専攻
教授 紀ノ岡 正博

森超結晶拠点

2021年度採択

カーボンニュートラル達成には電力省エネを実現出来る高効率パワーデバイスが重要となります。また、次世代通信技術の5G/ポスト5Gと人工知能(AI)を組み合わせたIoTの高度化は、エネルギー利用の最適化によってカーボンニュートラルの実現を後押しするとともに、デジタル社会実現に向けて不可欠です。森超結晶拠点では、グリーン・デジタル社会を切り拓く素材として、高品質でかつ低コストなGaNウエハを量産する技術革新を達成するために、Naフラックス法とアモノサーマル法を組み合わせた結晶成長技術、そして電気抵抗が従来よりも1桁小さい超低抵抗GaN結晶を実現するために、OVPE法を研究開発しています。Naフラックス法は26年間、OVPE法は20年間、森研究室で研究開発してきた世界唯一の技術です。並びに、1993年に発見した非線形光学結晶CsLiB6O10(CLBO)結晶を活用した、半導体製造技術で不可欠な超高出力深紫外レーザー光源を社会実装することで、我が国が半導体分野のトップランナーとなるためのイノベーションを創出することを研究目的としています。2022年度からは、健康長寿社会構築を目指す新たなテーマとしてバイオマテリアルの研究を拠点のテーマとして取り上げました。2018年から、名古屋市立大学医学研究科腎・泌尿器科学分野の先生方とMETEORプロジェクトで取り組んでまいりました尿路結石形成機序の解明、並びに大阪大学大学院医学系研究科免疫細胞生物学教室の先生方とteamBONEプロジェクトで取り組んでいます骨のリモデリングの解明に注力して参ります。



電気電子情報通信工学専攻
教授 森 勇介

福崎フロンティア産業バイオ拠点(連携)

2021年度採択

日本の『食』は世界最高水準の「安全」を誇っています。私たちはそれに「機能」を加え付加価値を高めることで「食の安心と美味しさ」を提供し、また産業界と連携することでより一層日本の食のブランドを「世界へ発信」していきたいと考えています。生物工学・分析化学・化学工学・電気情報科学、さらには農業経済学・栄養疫学の学際的な視点から「食のイノベーション」に取り組み、技術革新と社会へ行動変容を促します。フードメタボロミクス・フードDX・フードセキュリティ・フードプリンティング・バイオプロダクション・ゲノム編集技術をコア技術とした21世紀の食品工学の革新的な技術開発のプラットフォームになります。これらの発展は食の分野だけでなく、バイオ医薬品の開発・バイオマス資源やバイオ燃料の創製をさらに進めて、相乗効果を創り出すことが期待できます。今年度は新しいアプローチとして、フードロス・人口増加による食糧不足・日本の食料自給率問題・肥満・孤食など



から見る社会問題の視点から、眠れるアセットを洗い出して「食に関わる新技術」を議論し、より深掘りしていきます。また、高校生など若い世代へ私たちの取組みを伝えていくことで食の課題を探究学習としていき、高校・大学連携を計っていきます。



生物工学専攻
教授 福崎 英一郎

藤田ライフフォトニクス拠点(連携)

2022年度採択

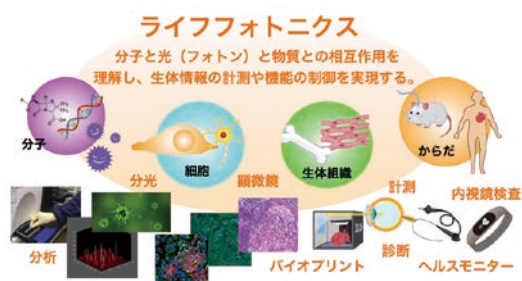
本研究拠点では、人々の健康を維持し、より優しい医療や食環境を構築するために、分子から細胞、生体組織までの広範に応用可能な計測、イメージング、センシング、制御技術の軸となるフォトニクスを中心に、分野融合的な研究を展開します。バイオイメージング、分子細胞分析、人工生体組織構築における新しい技術を生み出し、革新的な健康管理と医療/創薬技術を創出することを目的に活動します。生物学、医学の基礎研究を一変させる光計測技術を提供するとともに、次世代の医療、治療、創薬、公衆衛生、健康管理の基盤技術の構築と、それらの社会実装を実現する産学官共創イノベーション拠点の構築を目指します。

学内外の医歯薬系の研究者、および関連する物理学、化学、生物学、情報科学、数理科学の分野の研究者とともに分野融合的な研究を展開し、新しい科学や技術を創出することを試みます。また、国際的な共同研究、ワークショップの開催、また若手研究者の海外派遣も積極的に行い、世界に貢献できる研究を推進するとともに、我が国の科学研究の国際的なプレゼンスを高めることも目標としています。

研究成果の社会実装に関しては、大阪大学共創機構およびOI機構、また地域社会、企業団体とも連携し、主にスタートアップの創出のためのネットワーク構築、起業家人材の育成を実施していきます。



物理学系専攻
教授 藤田 克昌



社会共創拠点

原フューチャー・デザイン革新拠点

2021年度採択

現代社会は、気候変動や資源エネルギー問題、インフラ維持管理の問題、産業技術イノベーションなど、様々な長期的課題に直面しています。これらは、将来世代にも関わるサステナビリティ問題だと言えます。将来世代を考慮した持続可能な意思決定と行動を生み出すための新たな社会の仕組みや社会システムが求められる所以です。本拠点では、将来世代に持続可能な社会を引き継ぐための社会の仕組みや社会システムをデザインする「フューチャー・デザイン」に関する研究および産学官共創を通じた実践を進めています。フューチャー・デザインの理論や方法論を工学的に深化させるとともに、自治体や政府、産業界などのステークホルダーとの共創を通じて、フューチャー・デザインの理論・方法論に基づく、持続可能社会形成に関わる実践を進めています。実践領域としては、資源エネルギー、カーボンニュートラル、まちづくり、防災、産業界の研究開発・技術イノベーション戦略の立案

など様々なものがありますが、昨今では特に1) 脱炭素社会への移行プロセスのデザイン、2) レジリエントなインフラの維持管理モデル構築、3) 産業技術イノベーションのデザイン、に取り組んでいます。本拠点では、フューチャー・デザインの理論深化と応用実践を両輪として進めることによって、「将来世代」の概念を明示的に取り入れた新しい社会工学の基盤構築を目指します。



附属フューチャー
イノベーションセンター
教授 原 圭史郎

貝戸インフラ・リスクマネジメント政策形成拠点

2023年度採択

高度経済成長期に団塊的に建設された社会インフラの老朽化が進行しています。また近年の地球温暖化に伴う気候変動による気象災害の激甚化・頻発化や、切迫する南海トラフ巨大地震や首都直下地震など、社会インフラが晒される環境条件は過酷さを増しています。社会インフラの老朽化問題への対応はアセットマネジメント(日常の管理)、後者の自然災害への備えはリスクマネジメント(非日常への対応)として位置付けられます。これまで両者は、学術的には独立して分権的に研究開発がなされてきました。しかし、実務においては日常と非日常を同時に捉えて政策を立案することが一般的であり、アセットマネジメントとリスクマネジメントを有機的に接合し、連動させることがそれらの社会実装には不可欠です。本研究拠点では、現在のインフラに差し迫ったこれらの喫緊の課題解決にインフラ管理者とともに取り組み、実用化を図ります。さらに近い将来を見据えたバックキャスト型課題として、多様な価値判断をインフラ政策に取り入れるための政策デザイン論、気候変動を含む地球環境課題に対応した持続可能なインフラ政策の形成手法、多様なリスクをつなぐコミュニケーション論の開発を手掛けます。具体的には研究拠点内に、①老朽化リスク、②自然災害リスク、③価値判断の多様性&行動変容リスク、④地球規模グローバルリスク、⑤リスクコミュニケーションという5つの研究グループを立ち上げています。



地球総合工学専攻
准教授 貝戸 清之



インキュベーション部門

様々な社会ニーズや社会的課題を踏まえ、新たな学術領域や研究開発分野の萌芽および開拓を目的とし、分野融合および産学官連携を通じた研究活動や学術交流をグループ単位で推進します。

本部門は「連携融合型」「社会課題解決型」「大型プロジェクト準備型」の3つのタイプから構成されます。

連携融合型

現在12の分野横断型のグループが立ち上がり、広くメンバーを募集し、公開でのフォーラム開催や専攻を超えた共同研究の模索、産学連携の活動等を、他部局・他機関の研究者も交えて積極的に実施しています。

12の研究グループは、その研究内容の特徴から「科学技術展開分野」「工学応用連携分野」「社会工学融合分野」の3分野に整理しています。

右のロゴマークは、各グループのアイコンを虫眼鏡の輪郭を模して配置し、虫眼鏡全体で「未来社会のために探求する」コンセプトを表現しています。



科学技術展開分野			
 フォトニクス・センシング工学		 生体・バイオ工学	
フォトニクスの浸透が人々の生活をより良い方向に変化させます。PXを旗印に、現代社会が直面する課題の解決に挑戦します。		医療・創薬・健康・バイオ研究者が全世界的にネットワークを拡張し、アクティビティを高めるためのグループです。	
グループ長 物理学系専攻 教授 高原 淳一		グループ長 応用化学専攻 教授 松崎 典弥	
 デジタル造形工学		 元素戦略・分子デザイン工学	
サイバー・フィジカル空間融合による最適化デザインに基づき、最先端分野横断型モノづくり加速化に向けた大型プロジェクトを立ち上げます。		原子・分子およびその集合体を自在にデザインし、元素戦略にも立脚した高機能・高付加価値材料や化学反応を創出します。	
グループ長 マテリアル生産科学専攻 教授 中野 貴由		グループ長 応用化学専攻 教授 佐伯 昭紀	

社会課題解決型

社会から求められている課題に対して調査分析を行い課題解明に向けた活動を進めており、現在2グループが研究活動を進めています。

 1F-2050		 遺伝子治療用ベクター製造に関する研究開発と人材育成	
「1F-2050」グループは、福島第一原子力発電所(1F)の問題を中心に、エネルギー問題を見据えた幅広い議論・検討を行っています。		遺伝子治療などのためのベクターをバイオテクノロジーを駆使して製造するため、医学や薬学の専門家と一緒に研究し、人材の育成に取り組めます。	
グループ長 環境エネルギー工学専攻 教授 村田 勲		グループ長 生物工学専攻 教授 大政 健史	

工学応用連携分野			
 インテリジェントアグリ工学		 いきもの-AI 共創工学	
生物工学・国際交流の実績と工学研究科のインテリジェンスとのX(クロス)により真にSDGsに貢献する活動を実施します。		生物学、工学、哲学など様々な分野で考察されている「知」の源泉を探り、知的な人工物の設計論を構築します。	
グループ長 生物工学専攻 教授 村中 俊哉		グループ長 機械工学専攻 教授 大須賀 公一	
 つなぐ工学		 「TranSupport」工学	
つなぐ工学分野では、統合型接合学に基づき、溶接・接合分野における学術研究、応用研究、産官学連携、人材育成を推進します。		カーボンニュートラルやニューノーマルなどの新たな要請に対応しつつ、豊かで持続可能なモビリティシステムを社会に実装します。	
グループ長 マテリアル生産科学専攻 教授 佐野 智一		グループ長 地球総合工学専攻 教授 土井 健司	

社会工学融合分野			
 先読みシミュレーション		 もったいない工学	
シミュレーション技術の進化、融合、創成を通して、人類が人間らしく暮らしやすい未来社会の構築を目指します。		環境資源、エネルギーを含めた資源を徹底的に有効利用する技術とシステムを開発し、低炭素で持続可能な未来の構築を目指します。	
グループ長 物理学系専攻 教授 森川 良忠		グループ長 環境エネルギー工学専攻 教授 池 道彦	
 IoT プラットフォーム工学		 社会と技術の統合	
現実世界とサイバー空間が高度に融合する時代に向け、データ取得の最前線であるIoTエッジノード技術の研究開発を推進します。		複雑化した社会と細分化した技術の広がりのもと、システムオブシステムズとして、各種の要因が織りなす多様な関係の統合を考えていきます。	
グループ長 電気電子情報通信工学専攻 教授 廣瀬 哲也		グループ長 機械工学専攻 教授 藤田 喜久雄	

大型プロジェクト準備型

現在以下のグループが、新規の研究プロジェクトの開拓と組成に向けた活動を進めています。

組織名称	代表者名
表面量子状態研究拠点	物理学系専攻 助教 湯川 龍

若手卓越支援部門

工学研究科所属の若手研究者の研究活動支援を実施し、次世代を担う研究リーダーの育成を行います。特に卓越した若手研究者に対して、独立した研究環境や研究交流の場を提供し、若手研究者が高いモチベーションの下で最先端の研究活動や、先進的な研究分野の開拓をできるよう支援します。

本部門は、PIとして世界レベルの研究領域開拓を目指す「若手卓越教員」と、優れた業績を有する「次世代リーダー教員」から構成されます。

若手卓越教員

筋肉・受容器・神経デバイスの超分散化で切り拓く無脳ロボティクス 2021年度採択

我々が小道を歩くとき、ロボットのように毎秒何百回もの最適化計算を行うでしょうか？予測不可能な無限定環境をモデル化・記述し尽くすことは困難であり、今後訪れるであろう実世界へのロボット大進出時代のためには、詳細モデルのみによる頭脳先行型の制御戦略を脱却する必要があります。本研究では、動物末梢に備わる計算なき運動知能を理解して実装するため、機械式の筋肉・受容器・神経デバイスをロボット全身に埋め込み、上位脳からのわずかな指令により全身の反射系を統御する新たなロボット身体設計学と制御学を創成します。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
機械工学専攻
助教 増田 容一

ミクロ空間から解き明かす亀裂岩体のふるまいと長期性能 2022年度採択

世界三位の地熱資源大国日本にとって地熱発電は魅力的な再生可能エネルギーであり、地熱発電を促進する技術群の確立・実用化が渴望されています。特に、地下の高温岩体中に流体の貯留層となる亀裂網を人工造成し、地熱エネルギーの継続的抽出を狙う貯留層造成型の地熱開発技術には大きな期待が寄せられています。本研究では、地熱貯留層の造成～状態・性能の長期変化まで、ミクロな亀裂内空間も含め正確に予測する数値解析技術を開発し、持続可能な地熱エネルギー抽出をもたらす貯留層の確実な設計・造成を可能にします。これにより、貯留層造成型地熱開発技術の実用化をもたらし、膨大な地熱資源をフル活用可能な地熱大開発時代到来へ繋がります。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
地球総合工学専攻
助教 緒方 奨

nm / サブ THz 領域における超音波技術の創出 2022年度採択

私はフェムト秒パルスレーザを用いて波長 nm / 周波数サブ THz オーダの超音波を操る計測技術を開発します。超音波は物性評価・イメージング・センシングなど様々な科学技術に応用されています。しかし従来は波長が長いためナノスケールでの計測には不向きでした。そこで私はフェムト秒パルスレーザを用いて可視光よりも波長が短い超音波を操り、更にナノスケールで焦点化する極限超音波技術の創出を目指します。この究極の超音波計測技術は nm オーダの半導体やタンパク質などの構造・力学特性・形態変化を計測することができるため、幅広い分野における科学技術の発展に大きく貢献します。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
附属精密工学研究センター
助教 長久保 白

発生と疾病のバイオフィットメカニクス

2022年度採択

本研究では、オルガノイド（臓器の種）の発生を最大化する“硬さ”の役割を解明するべく、独自の光計測・光制御技術を組み合わせた新たな実験システムを構築します。本システムを用いれば、“身近な物理量である硬さ”によってオルガノイド培養法を統一化し、誰もが平易にオルガノイドを培養できる未来に繋がっていきます。さらに、臓器の恒常性が破綻して起こる疾病化の機序についても、硬さの役割を解明します。テクノアリーナ内でも連携を強め、バイオ・フォトリクス・メカニクスが融合した新領域の創出を目指します。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
物理学系専攻
助教 松崎 賢寿

芳香族クラスターの特性を活かした触媒機能開拓と応用研究

2023年度採択

プラスチック・医薬品・ディスプレイ・染料・衣料品など、私達の生活は様々な「有機化合物」によって支えられており、こうした多様性の原動力となるのが有機分子そのものの構造多様性です。私は、かご型構造を持つクラスター分子に特有の「三次元芳香族性」という性質に着目して、これを化学反応の駆動力として組み込んだ新しい触媒設計コンセプトの実証&実用化を目指します。これまでの手法を凌駕する、高効率かつ高選択的な分子変換手法を確立することで、化学産業の省資源化&省エネルギー化を実現し、持続可能な発展に貢献することが期待できます。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
応用化学専攻
准教授 西井 祐二

「分活」を実現する分子技術の創出

2023年度採択

本研究は、粗水素（H₂とCOやCO₂の混合ガス）が未開拓な工業資源であることに注目し、粗水素を直接的に利用した有機化合物の水素化反応の開発に取り組みます。特に、水素化ターゲットとなる有機化合物として芳香族複素環化合物を用いることで、粗水素ガスからH₂を直接的に分離・貯蔵・運搬する革新的技術の確立を目指します。つまり、【粗水素→高純度水素→H₂貯蔵・運搬】という流れの既存技術に対して【粗水素→H₂貯蔵・運搬】という新たな技術を検証します。これにより、バイオマスを含む炭素資源を効率的かつ安定的に利用した水素社会の実現に貢献します。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
応用化学専攻
准教授 星本 陽一

励起一重項と三重項のエネルギー逆転の創発

2023年度採択

フントの規則より、同一電子配置において、最大のスピン多重度を持つ状態が最低エネルギーを持ちます。よって、励起三重項は一重項よりエネルギーが低く、それらのエネルギー差 ΔE_{ST} は正であると知られています。本研究では負の ΔE_{ST} を持つ有機発光材料群を開発し、希少金属フリーの高性能有機ELデバイスを実現します。さらに、多数の電子配置から創発する負の ΔE_{ST} の基礎科学を開拓し、有機ELデバイス性能の飛躍的な向上に繋がる学理を確立します。



附属フューチャー
イノベーションセンター/
応用化学専攻
助教 相澤 直矢

次世代リーダー教員

准教授 上松 太郎
(応用化学専攻)
2021年度採択



量子ドット蛍光体の合成、新材料開発、表面修飾による発光特性改善とデバイス応用

准教授 大石 佑治
(環境エネルギー工学専攻)
2021年度採択



浮遊法を用いた高温溶融物の熱物性評価手法の開発及び炉心溶融物の熱物性評価

准教授 大洞 光司
(応用化学専攻)
2021年度採択



タンパク質の化学的分子設計に基づく人工酵素および生体材料の合理的開発

准教授 加藤 泰彦
(生物工学専攻)
2021年度採択



ミジンコの環境応答メカニズムに基づいた生態影響評価法の開発

准教授 栗原 泰隆
(マテリアル生産科学専攻)
2021年度採択



酸化物の欠陥構造とプラズモン光反応場を利用した革新的 CO₂ 変換反応の開発

准教授 近藤 美欧
(応用化学専攻)
2022年度採択



金属錯体の集積に基づく革新的触媒系の創出

准教授 篠崎 健二
(ビジネスエンジニアリング専攻)
2023年度採択



非晶質ナノ構造設計により光機能および力学機能を発現させた新規ガラス材料の開発

准教授 嶋寺 光
(環境エネルギー工学専攻)
2021年度採択



物理モデルと統計モデルの統合による大気質の高精度推計手法の開発

准教授 杉原 達哉
(機械工学専攻)
2021年度採択



切削加工を中心とした次世代もののづくり技術の構築と加工にまつわる種々の現象の解明

准教授 清野 智史
(ビジネスエンジニアリング専攻)
2021年度採択



放射線を利用した機能性ナノ粒子材料の創製とその応用

准教授 武田 洋平
(応用化学専攻)
2021年度採択



分子の形と元素の性質を活用した多彩な光・電子機能分子の創製と有機材料としての応用

准教授 西本 能弘
(応用化学専攻)
2021年度採択



資源的に豊富な典型元素の性質を巧みに制御することによる高機能金属触媒の創成

准教授 平原 佳織
(機械工学専攻)
2021年度採択



電子顕微鏡リアルタイム観察によるナノスケール機械現象・力学的挙動の機構解明と制御

准教授 廣畑 幹人
(地球総合工学専攻)
2022年度採択



熱加工技術を駆使したインフラ構造物の再生・強化

准教授 藤枝 俊
(環境エネルギー工学専攻)
2021年度採択



磁性-弾性の相互作用の制御による振動発電用の逆磁歪材料の創製

准教授 森 浩亮
(マテリアル生産科学専攻)
2021年度採択



カーボンニュートラル水素エネルギープロセス構築を目指した革新的ナノ構造触媒の創出

講師 石原 尚
(機械工学専攻)
2021年度採択



柔らかい皮膚で人と触れ合って豊かに情報を交わせるアンドロイド身体の高機能化

講師 重光 孟
(応用化学専攻)
2022年度採択



超分子集合体の新奇光機能の開拓と応用

講師 鈴木 崇弘
(機械工学専攻)
2023年度採択



スラリーを用いた反応輸送場形成とエネルギーデバイス機能発現の原理説明

講師 溝端 栄一
(応用化学専攻)
2021年度採択



X線自由電子レーザー (XFEL) を用いたタンパク質・酵素の動的構造機能相関の解明

講師 吉田 浩之
(電気電子情報通信工学専攻)
2021年度採択



液晶の微細配向制御に基づく新規物性開拓と機能性光学素子への応用

講師 鷺野 公彰
(機械工学専攻)
2021年度採択



粉粒体と流体が混在する流れのモデリングと数値シミュレーションによる現象理解

助教 小林 拓真
(物理学系専攻)
2023年度採択



ワイドギャップ半導体における発光中心の開拓と量子応用

助教 藤原 邦夫
(機械工学専攻)
2022年度採択



原子スケールにおける界面熱流体輸送現象の解明と制御

テクノアリーナに関するお問い合わせ

大阪大学大学院 工学研究科
附属フューチャーイノベーションセンター(CFi)内
テクノアリーナ事務局(U1W棟 1階)

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1
[TEL] 06-6879-7195
[URL] <http://www.cfi.eng.osaka-u.ac.jp/>
[Email] arena-office@cfi.eng.osaka-u.ac.jp



CFi



2023年5月1日発行 Ver.4